

海藻「フノリ」薬品使わず脱色 文化財修復用に高品質化



フノリを使ったより高品質な文化財修復材料を開発した村上特命教授(右)と大脇社長。2日、永平寺町の県立大永平寺キャンパス

県立大生物資源学部の村上茂特命教授と、古くから織物ののり剤として使われる海藻「フノリ」の加工販売を手掛ける大脇萬蔵商店(福井市)は2日、フノリを用いたより高品質な文化財修復材料を共同開発したと発表しました。フノリを使った既存の修復材料とは異なり、脱色に化学薬品を使わず無色透明に近い。絵画や掛け軸を傷めず、作品の元の色合いを損ないにくいという。海外の美術館などで需要が高く今後、国内外に向けてウェブ販売を行う。

(田中奈々子)

高評価、ウェブ販売へ

県立大の村上特命教授 大脇萬蔵商店(福井)開発

フノリは粘り成分を豊富に含み、文化財を傷つけない程度の接着性に優れる特徴から、修復用に重宝されてきた。より品質の高い修復材料が世界的に求められていることを知った村上特

命教授らは4年前から研究に着手した。

従来の修復材料は黄みがかった色で、フノリを脱色するために微量の薬品が入っている。村上特命教授らは薬品を使わずに低コストで赤紫色のフノリを脱色できないかと模索。温度や時間の条件を変えて、加熱処理したり水に漬けたりして実験を重ねた結果、接着性は残したまま無色透明に近い材料の開発に成功した。

文化財の保存や修復の研究、指導を行う東京文化財研究所からは「文化財への影響を気にせず用いることができ、活用の可能性が広がる」との評価を受けたという。同社の大脇豊弘社長は「英文対応のホームページを9月中にも作成し、国内外への販売を本格化したい」と力を込めた。村上特命教授は「無色透明、低コストをさらに追求できれば」と話していた。